

## 週日の説教

金 大烈 神父 2009年8月25日(火)

### 《全ては、心から始まります》

ある物語を紹介します。

ある奥さんが、お気に入りの包丁をととても大事にしている、台所仕事をしながら眺めるのを楽しみにしていました。

ところが、ある日突然、その包丁が見つからなくなりました。台所のあちこちを一生懸命に探しますが、見つかりません。そして、よく考えてみると、前の日に隣の奥さんと台所で話をしたことを思い出します。

翌朝、隣の奥さんが「おはようございます」と挨拶をすると、いつもと少し違うように見えます。悪いことをして良心の呵責を感じているから、挨拶がおかしいのではないかと思えます。歩き方も、いつもと違って早く他へ行こうとしているように見えます。何か話しかけても返事が変に聞こえます。そこで、彼女は確信をします。「私の大事な包丁を盗んだのは隣の奥さんだろう。」と。そして、「人間は罪を犯すとすぐに顔に表れてしまう。だから、悪いことをしてはいけない。」と独り言を言います。

ところがその夜、台所に行ってみて、自分の失敗で、包丁が食器棚の間にはさまっているのに気づきます。その翌朝、隣の奥さんがいつもと同じ言い方で「おはようございます」と言うと、昨日とは全然違うように見えます。よく考えてみると、この奥さんは昨日もおとといも一年前もそして今も、いつも同じ言い方をして、同じ歩き方をしています。それなのに、なぜ昨日は違うように見えたのか、不思議に思いながら反省をしたという話です。

これは、「全てのことは心から始まる」という教えを伝える物語です。

今日の福音(マタイ 23・28 - 26)を読んでみますと、ファリサイ派の人や律法学者の人々が、イエス様にもものすごく叱られています。たぶん彼らは、朝の祈り、昼の祈り、夜の祈りもきちんとしていたのでしょう。律法に書かれていることはできるだけ守ろうと頑張ったと思います。しかし、その律法がなぜ作られているのか、根本的な精神を忘れてしまったのです。

私たちも、今日の福音、そして先ほどの話の奥さんのことを通して考えてみるとよいでしょう。

やはり、全ては心です。心が感じれば、どんなことでも私たちにはそのように見えます。見た目がいくら美しくても、心が許さなければ、その人の全てが醜く見えます。そういう意味で、私たちが大事にしなければならないのは、自分の心が今、どのような状態なのか、どのような状態でミサに与っているのか、どのような状態で奉仕をしているのか、それを考えることです。そうでなければ私たちは喜びを感じられないと思います。

ミサの時間、教会の教え、法律をきちんと守っている人がよく陥る間違いは、自分が一生懸命にしているから、一生懸命にしないことが醜く見えることです。ですから、厳しい目で相手を見てしまいます。寛大な心も、余裕がある心も、持てなくなります。「私は、朝5時には起きてミサに与る。それなのに、相手の人はいつもミサが終わってから顔を見せている。」と考え、自然に相手の人へ優しい目を向けられなくなります。

しかし、なぜミサに与ろうとしているのか、なぜ教会の教えを守らなければならないのか、それが分れば、守れない人の心もある程度理解できるのではないのでしょうか。「私にもできるのだから、あなたも頑張ればできるよ。」という温かい励ましの目ではなく、「なぜ遅くなったのか。なぜ遅れたのか。なぜ守らなかったのか」という批判的な目で見ってしまうと、結局、守らなかった人より守っている人のほうが地獄のような生き方になってしまいます。

ですから皆様、イエス様がおっしゃったように、心を失わないようにしましょう。善いことをして

も、どんなことをしても、自分の心が地獄ならば、何の意味もないことを今日の福音を通して考えてみましょう。たぶん、律法学者達やファリサイ派の人々の心は、いつも何かに追いかけている、地獄のような感じだったのでしょうか。そして、いつも緊張して生きていたのだと思います。だから、助けを求める人々の心が見えなくなってしまうのです。そして結局、神様さえ殺してしまうような最悪のことになってしまったと思います。そのような人々の心を考えてみて、私たちも簡単なことですぐに偽善者になってしまう可能性があることに気づきましょう。

ありがとうございました。